

平成29年度 事業報告書

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

平成30年 5月26日

学校法人 金蘭千里学園

1. 法人の概要

単位：名

項目	高等学校	中学校	備考
設置する学校	金蘭千里高等学校	金蘭千里中学校	
入学定員	180	180	
在校生徒数	490	553	平成29年5月1日現在
教職員数	54	60	平成29年5月1日現在

2. 事業の概要

・金蘭千里中学校・高等学校における事業の基本的な概要

以下の項目・内容を基本・原則として、教育事業を展開した。

男女共学 1学級30人

学習指導

カリキュラム

併設型中高一貫校としてのカリキュラムによる効果的、効率的学習

英語・数学・国語は、基礎科目として時間増

理科・社会は、広範な科目を履修することによる幅広い進路選択への対応

20分テスト

通常授業を重視し、月～金曜日に成績評定を決する復習テストを実施し、成績状況を授業や

個別指導にフィードバックすることによる学力の向上、定着

特別授業

学力の補足、練成のための、夏季・冬季・春季長期休業期間における特別授業の実施

生活指導

担任を中心とした個人指導の徹底

スポーツ

校技

男子はサッカー、女子はバレーボールを校技と定め、6年間を通じた指導により全生徒が共通のスポーツとして習得

他種目

校技に加え、学年によってテニス、バスケットボール、卓球、ハンドボール、バトミントン、男子バレーボール、女子サッカー、ゴルフを選択履修

国際理解／キャリア教育

「日常」と「異文化」の相対化と「体験」による「知識」の裏付けによる「弾力的国際人」を育成するためのカリキュラム

中高6年間の発達段階と生徒の個性と能力に応じた進路指導のため、外部講師による講演や職業体験などを通じた、単なる大学進学指導に止まらない幅広い進路指導

- ・ネイティブ・スピーカーである教員による英語指導

- ・外務省や国際機関、外国公館を通じ派遣された専門家による、国際事情の理解を深めるための講演

- ・民族学博物館の見学とテーマ学習による異文化理解

- ・イギリス海外研修（イートン校・ハロウ校）＜希望者のみ＞

- ・能楽、狂言、茶事、落語といった日本の伝統文化体験

- ・本校卒業生による進路決定に至る体験の講演

- ・職業選択に至るプロセスに関する講義や、医療従事者、起業家等の専門家を招いた講演

野外活動

キャンプ・自然研修

各学年キャンプ又は自然研修旅行の実施による自然体験

徒歩訓練

北摂の自然に触れるオリエンテーリング形式の行事の実施

情操教育

音楽鑑賞

国内外の一流のアーティストによる演奏鑑賞の実施

合唱祭

中学生・高校一年生が運営企画するクラス対抗のコンクールの実施

情報教育

ICT環境を整備し、eメール、インターネット等の基礎技術の修得や各教科学習の補助に資するととどまらず、情報化社会に対応する情報処理モラルの涵養

自主性の涵養

クラブ活動の充実を図ることにより生徒の多様性に対応するとともに、生徒に多面的な負荷をかけることにより「勉強を頑張りクラブ活動も頑張る」スタイルを確立させ、多彩な活動ができる人材を育成

文化祭、体育祭の運営を通じ独創性と自発性の涵養

・当該年度の主な事業の計画・目的

体育館の整備

- ・金蘭会学園からの借用となっている体育館を自己所有とすべく、資産交換等を含めて取得時期の確定に向け、金蘭会学園との交渉をすすめる。

ICT教育に対応する為の校舎の整備

- ・昨年度試行した教室のICT化（普通教室7教室のICT整備）の結果を受け、本年度に整備を本格的に実施する。
- ・全普通教室及び特別教室の一部に、プロジェクター、スクリーン、Wi-Fiを整備し、2学期からの本格運用を目的に工事を行う。

学校に対する満足度向上の取組み

- ・客観的評価を行うことで本校教育活動の根幹である授業のさらなる向上を図るため、生徒に対する授業アンケート実施をする。
- ・保護者から要望があった男子体育授業時の更衣場所の変更について、教室での更衣に変更する。それに伴い、また貴重品管理の観点から普通教室の鍵を個別のものに交換する。

校舎の有効活用と再整備の検討

- ・クラブ数の増加、学び学習、体験学習、ICT化など、50周年改革や、教育環境の変革に対応した校舎のあり方を整理・確認し、具体的な校舎整備の時期、プランについての検討を行う。

・当該計画の進捗状況

体育館の整備

- ・金蘭会学園による北グラウンド等の売却計画が白紙撤回となるとともに、資産交換・売買交渉の対象物件であった千里金蘭大学別館は、同大学が耐震工事施工の上継続使用することとなったため、金蘭会学園との間で進めてきた北グラウンド、大学別館を含む資産交換・売買における体育館取得交渉は中止とした。
- ・上記状況の変化を受け、体育館の所有、使用については、後述の校舎の再整備に関する計画に含め、一体的に来年度以降検討を進めることとした。

I C T教育に対応する為の校舎の整備

- ・平成29年9月より全普通教室(計30教室)、特別教室(計14室)等にプロジェクター、スクリーン、W I F I、関連機器等I C T設備の整備工事を行い、平成30年2月までに順次運用を開始した。
- ・施設整備とともに、全生徒に対するI C T機器用のI Dの付与、I Dカードの発行や教員の研修を実施し、平成30年度以降の本格的運用に向けた環境整備を行った。

学校に対する満足度向上の取組み

- ・今年度は、全生徒を対象とした授業に関するアンケートを7月及び11月の2回実施した。各教員にアンケート結果をフィードバックすることにより各教員の授業内容の充実に向けた取り組みの一助とした。アンケートは来年度以降も継続して実施することとし、より客観的に教員の授業内容を評価することで更なる授業内容の充実に資するものとする。
- ・体育の授業時の更衣場所を4月より教室に変更した。それに伴い各教室の施錠体制を整えるため、各教室の鍵を個別のものに変更した。

校舎の有効活用と再整備の検討

- ・校舎、設備の再整備について、上記体育館の整備に関する状況変化を受け、体育関連設備の整備も含め、新施設建設に関する検討に着手した。
- ・関連業者、アドバイザーからの情報収集を始めとして、建設候補地の選定や工事施工時期等の具体的な検討を始める体制を整え、次年度以降に計画の具体化を目指すこととした。

以上